

発掘調査から見る安土城

～主郭部とはどのようなところか？～

2025. 7. 27 安土信長検定 令和7年度第2回事前勉強会
滋賀県文化スポーツ部文化財保護課 岩橋隆浩

はじめにー本日の構成とねらいー

- ◎安土城の主郭部とはどのような場所かを知る
- ◎安土城主郭部の発掘調査成果を見る
- ◎発掘調査成果などから主郭部を考える
- ◎これからの課題は何かを知る

1. 安土城の主郭部とは

◎用語としての「主郭」

主郭・・・城の中心的な郭

◎その位置

安土城内での位置

安土城の中でもっとも標高の高いところ

城内の最高所である天主台を中心とした郭群

天主台・伝二の丸・伝三の丸・伝本丸取付台・伝本丸・伝長谷川邸跡・二の丸南帯郭

二の丸東溜・三の丸東溜・伝台所・伝米蔵・（伝煙硝蔵・八角平）

主要城内道が集まる所

大手道・百々橋道・七曲道・搦手道

◎その特徴

4つの門で閉じられた空間

黒金門（主郭部西虎口）・主郭部北虎口・本丸南虎口・（本丸北虎口）

5つの高さで構成された郭群

- ①天主台
- ②伝二の丸・本丸取付台・伝三の丸
- ③伝本丸・二の丸東溜・三の丸東溜
- ④伝長谷川邸跡・（伝台所・伝米蔵）・・・伝煙硝蔵や八角平は？
- ⑤二の丸南帯郭（黒金門から二の丸下の通路となっている部分）

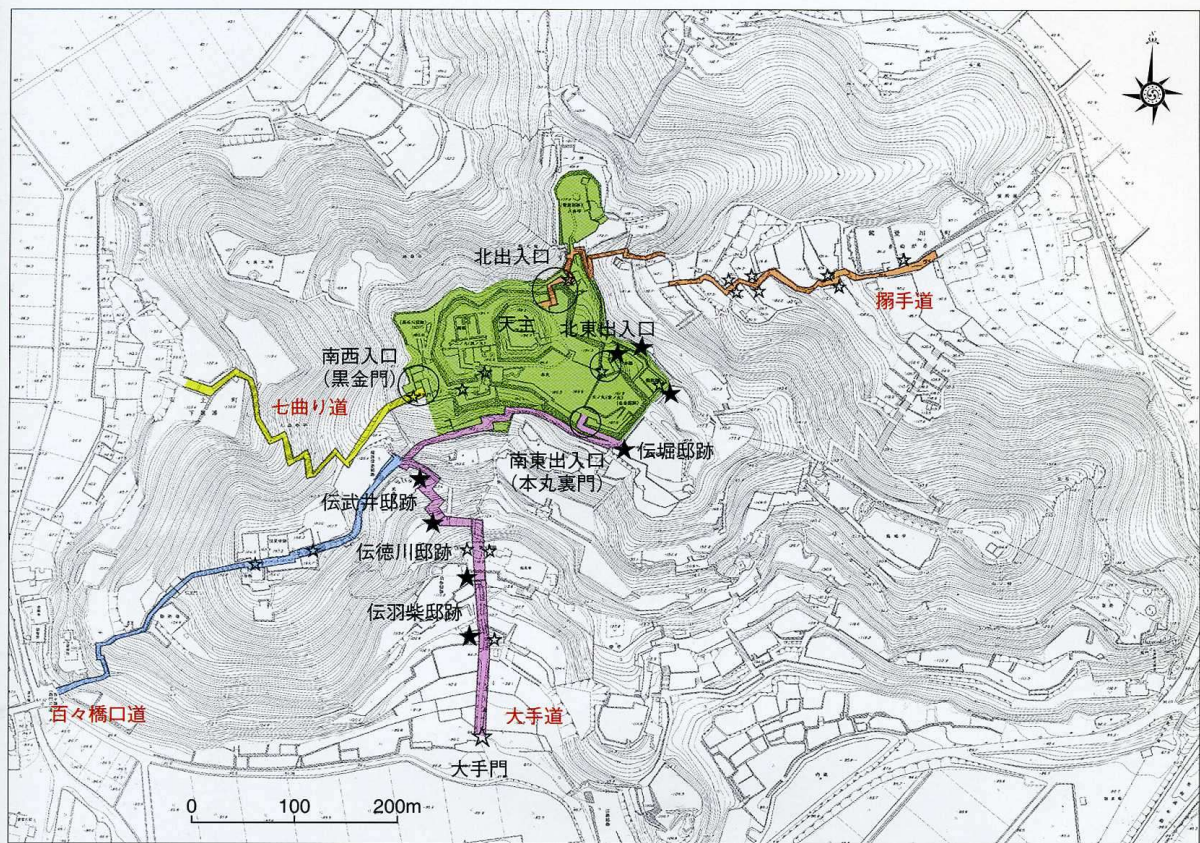
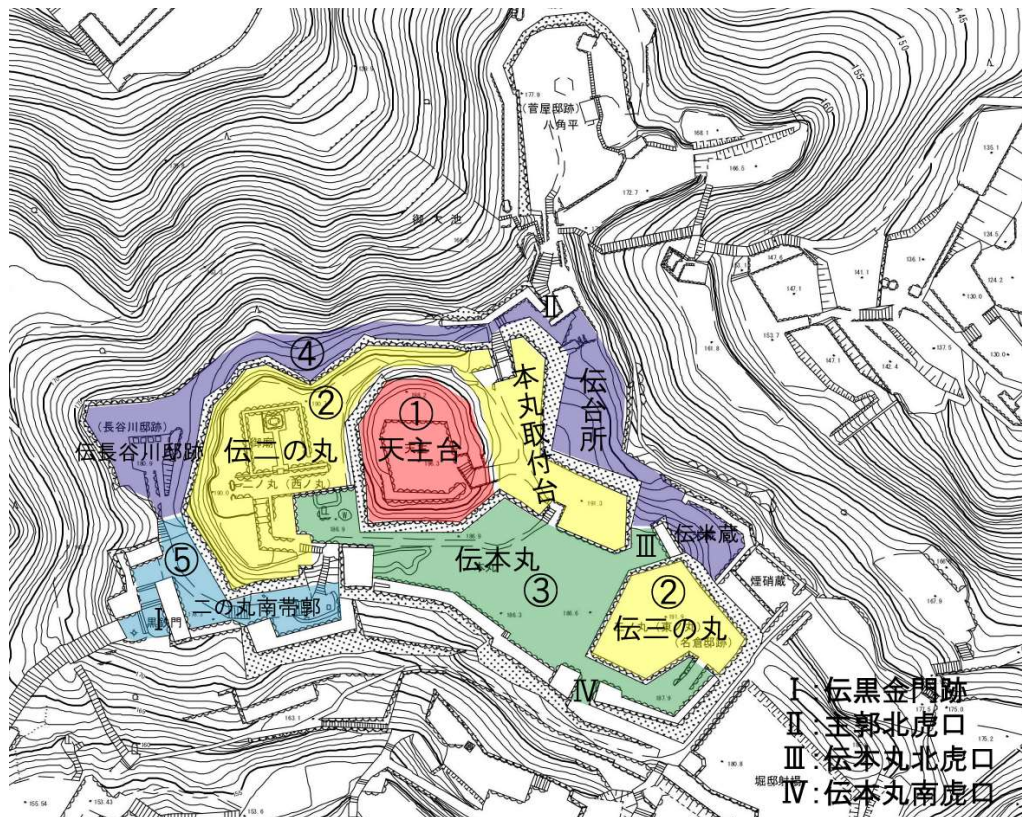


図11 主郭部と城内道



PL1 上: 安土城主郭部と城内道 (『安土城 1999』より転載)

下: 安土城主郭部における各郭の高さ関係

2. 安土城主郭部での発掘調査

◎その歴史と事業の概要

①昭和初期の環境整備

安土保勝会が実施した環境整備事業

史蹟標柱・案内板・境界標石などの設置（昭和2年～4年）

園路の整備（旧大手道・百々橋道など）（昭和4年～6年）

①戦前の発掘調査

天主台と伝本丸の発掘調査

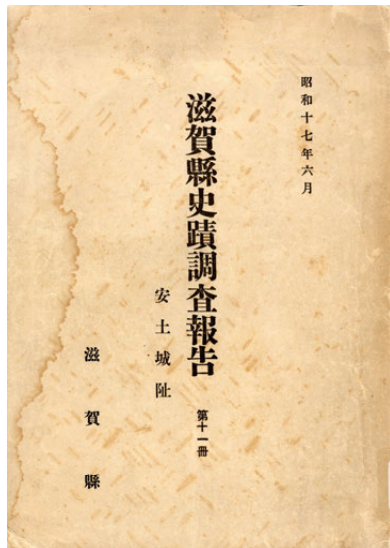
調査前の天主台と本丸の様子

一面瓦礫の山で、何がどこにあるのか一見してわからない状態。

瓦礫や土砂を除去して、建物礎石や天主台を検出した。

ただし、現在の発掘調査と比べると記録として足りない部分が多い

調査後に環境整備・・・天主台と伝本丸は現在見えている姿になった



天主台主地整現狀 圖五第



天主台登り口(一) (東の方面の登り口)



天主台登り口(二) (土砂取り除いた後の状態)

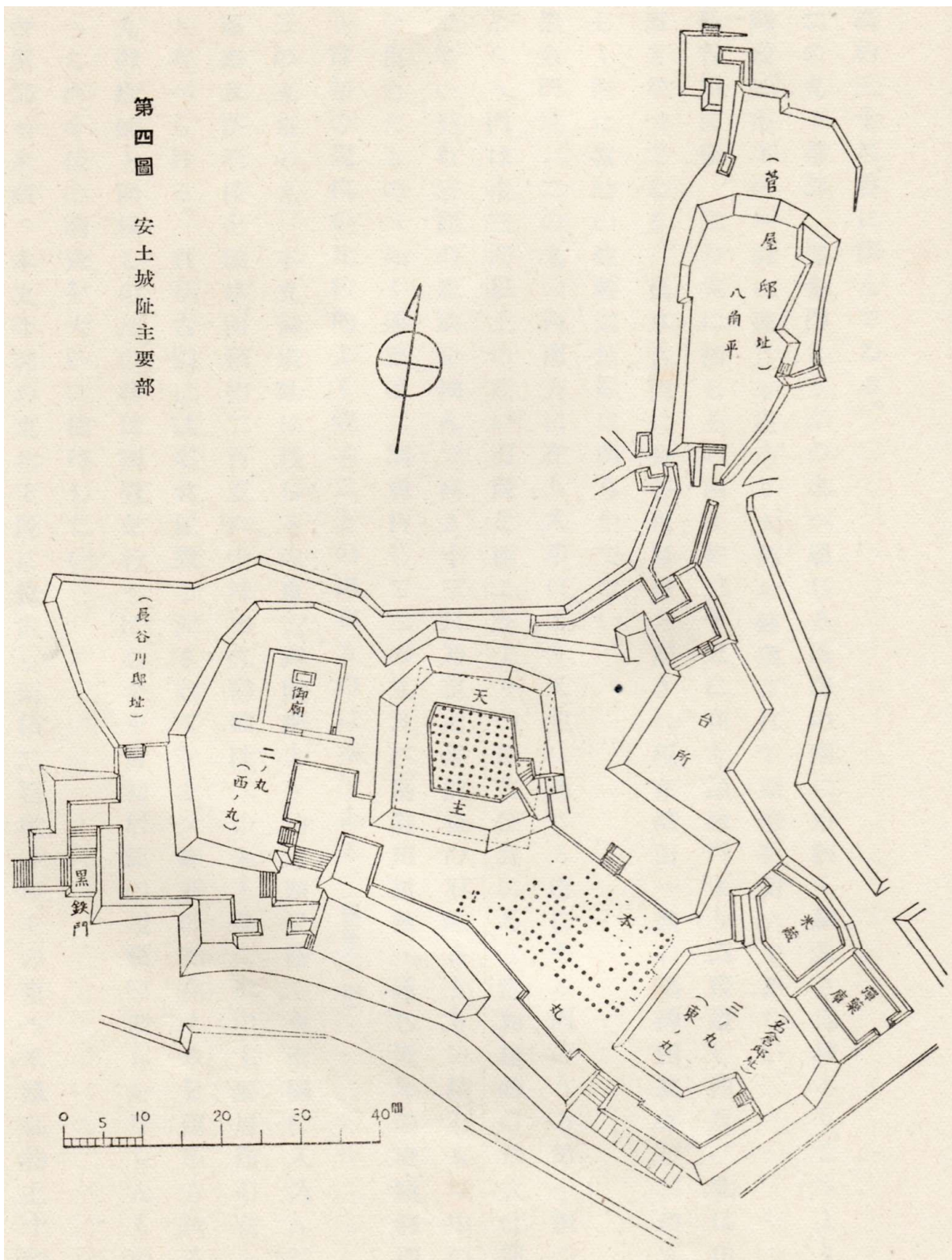
PL 2 昭和の発掘調査報告書（『滋賀縣史蹟調査報告書 第十一冊 安土城址』より転載）

上左：報告書表紙 上右：天主台穴蔵内の調査前状況

下左：天主台登り口の調査前状況 下右：天主台登り口の調査後状況

第四圖

安土城址主要部



PL 4 昭和 15~16 年度の主郭部平面図 (『滋賀縣史蹟調査報告第十一冊(安土城址)』より転載)

②昭和の環境整備事業

◎内容

主郭部における石垣修理と崩落石材の整理

◎問題点

事業の報告書が一部を除いて未刊行

これに伴う発掘調査がきちんと行われていたか？

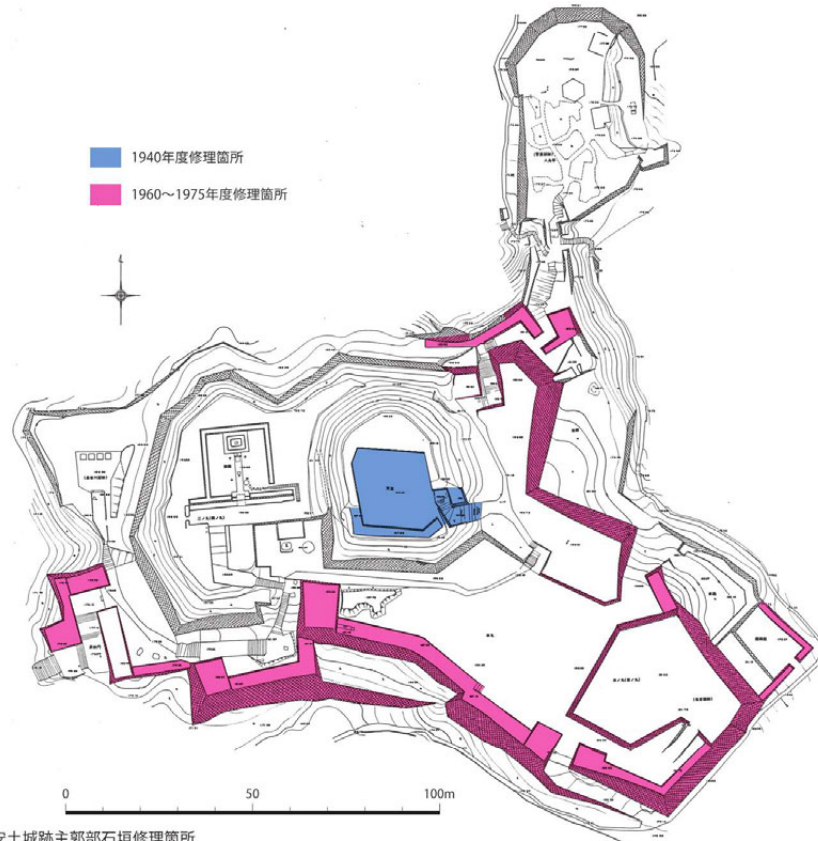


図7 安土城跡主郭部石垣修理箇所



39 二の丸下南帯郭出土 巴文様板瓦 (滋賀 惣見寺蔵)



41 二の丸下南帯郭出土 隅軒丸瓦 (滋賀 惣見寺蔵)



40 二の丸下南帯郭出土 桐花紋飾瓦 (滋賀 惣見寺蔵)



写真 33 ㉑本丸台地入口隅櫓石垣北西面 (修理前)



写真 34 ㉒本丸台地入口隅櫓石垣北西面 (修理後)

PL 5 昭和の環境整備事業での石垣修理実施箇所 (『安土城・2025』より転載)

③平成の主郭部での発掘調査

◎城内主要遺構確認調査

主郭部とその周辺での確認調査

⇒遺構の内容などを確認するための小規模な発掘調査

◎調査エリアごとの概要（PL 1 下の図で位置を確認）

・天主台

天主台穴蔵床面の状況と穴蔵への通路の状況が明らかに

天主台の残存状況と崩落の状況が明らかに

・本丸取付台

建物の一部が明らかに

後の令和の調査で北半部の建物のおおよその規模が判明

・伝三の丸・三の丸東溜

伝三の丸では建物礎石を検出

⇒郭内には数棟の建物があると推定⇒礎石の分布より

三の丸東溜のスロープは後補のものだと判明

⇒厚い瓦片の堆積の下で建物礎石を検出

※伝二の丸は信長廟があるため調査はできなかった

・伝本丸～二の丸東溜

中心部分の建物の規模などがほぼ確定⇒建物の間取りの復元

中心建物周囲には諸施設が存在⇒水溜（石枡・石製容器）・庭・溝など

中心建物の西にも建物礎石

二の丸東溜では火災で焼失した建物跡を検出

・伝台所・伝米蔵

伝台所：カマドなどを確認

伝米蔵：多量の瓦片の堆積 建物礎石を確認 金箔鯰瓦が出土

伝煙硝蔵：未使用の瓦が集積された状態で出土

・伝長谷川邸跡

建物礎石を確認 詳細は不明

・各虎口

黒金門・二の門・三の門：礎石確認 門扉の位置を推定できる

本丸南虎口：礎石確認 2ないし3つの門で閉じる空間か

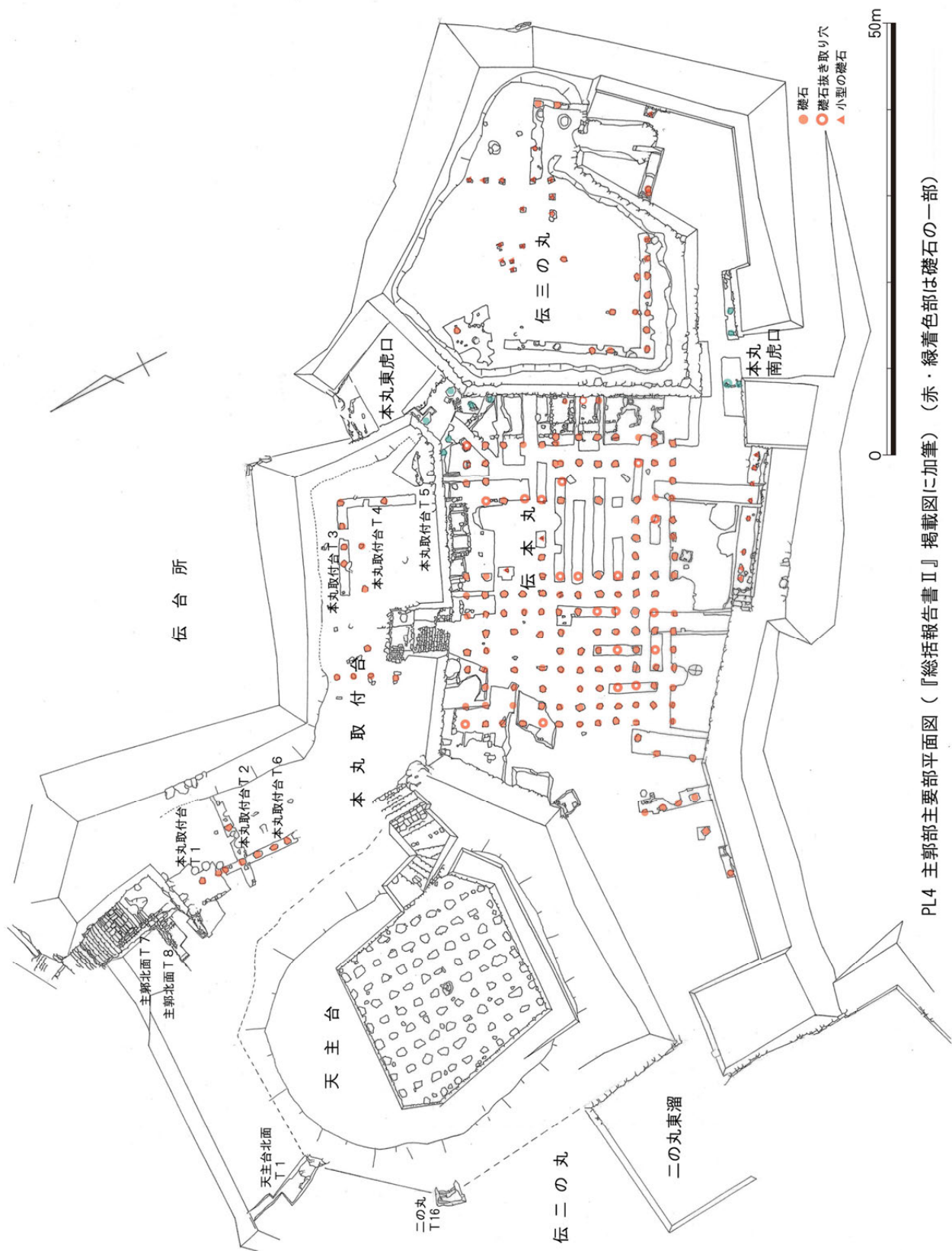
本丸北東虎口：礎石と石段を確認

主郭北虎口：折れを多用した狭い通路に礎石 伝台所とは埋門で接続

主郭南面：主郭外周路

・その他

主郭外周路の遺構の一部が明らかに・主郭外周路＝大手道か？



PL4 主郭部主要部平面図（『総括報告書Ⅱ』掲載図に加筆）（赤・緑着色部は礎石の一部）

PL6 主郭部主要部平面図（『総括報告書Ⅱ』掲載図に加筆）（赤・緑着色部は礎石の一部）



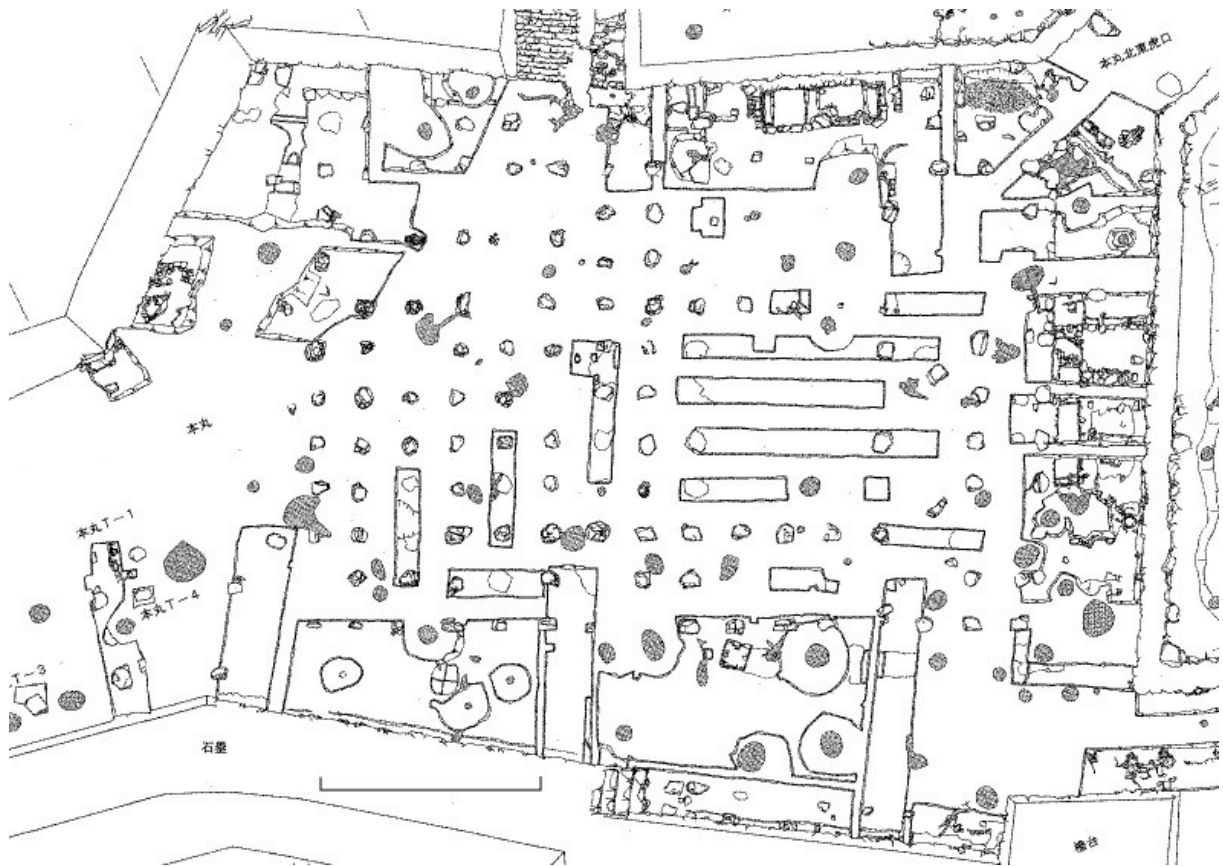
PL 7 天主台関連写真(左:穴蔵床面と礎石群 右:穴蔵中央の土坑(『安土城を掘る』より))



PL 8 伝三の丸跡関連写真(左:建物礎石列 右:三の丸東直下瓦の堆積と礎石(『安土城を掘る』より))



PL 9 伝本丸跡関連写真(上左:全景 上右:石枘 下左:雨落溝 下右:手水鉢?(『安土城を掘る』より))



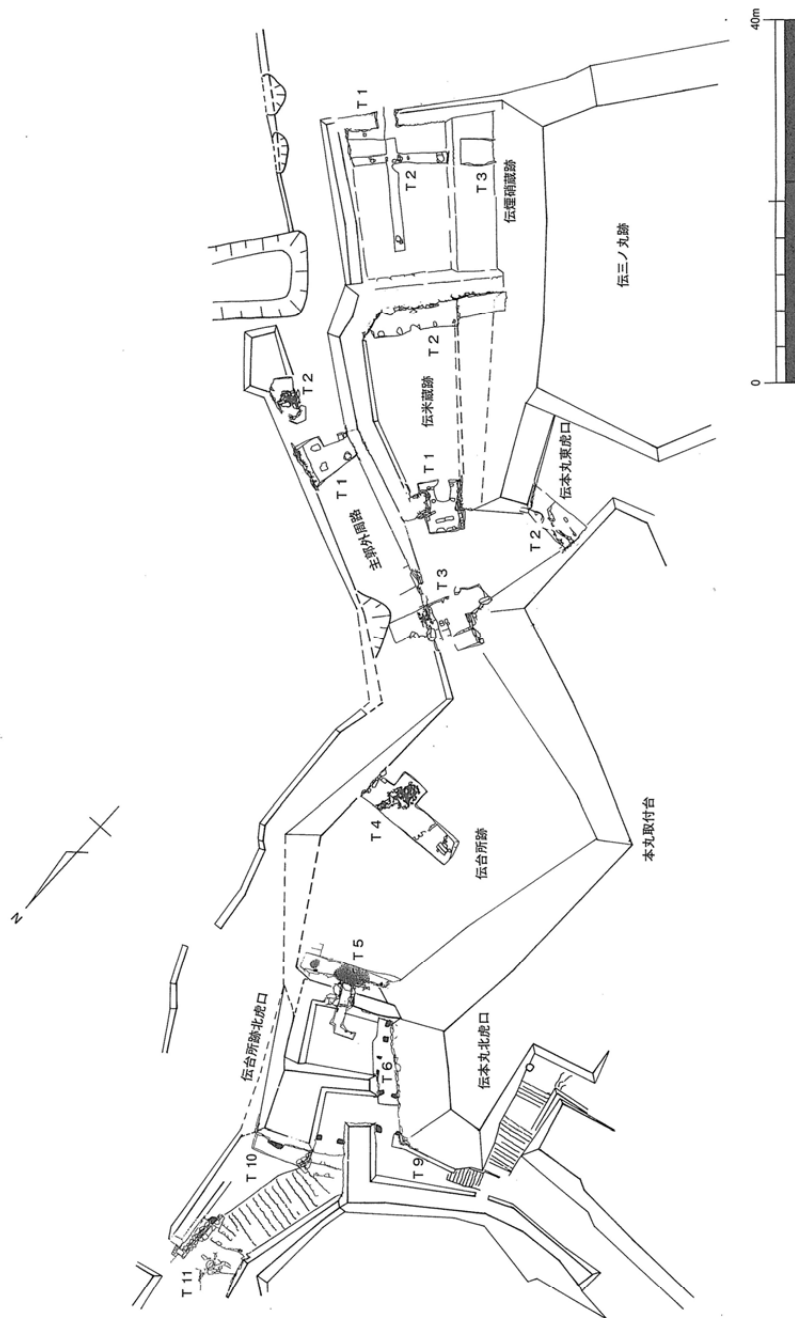
PL10 伝本丸跡関連図（上:伝本丸跡平面図（『発掘調査報告書 12』より）下:本丸中心建物復元平面図（『安土城を掘る』より転載））



PL11 二の丸東溜関連写真

(上:焼失建物上面

中:焼失建物建築部材等 (『安土城を掘る』より) 下:焼失建



PL12 主郭北～東面関連図

(1) (上:平面図(『総括報告書Ⅱ』より) 下左:伝煙硝蔵跡集積瓦(『安土城 2025』より) 下右:伝米蔵跡出土金箔鯨瓦(『20年の記録』より転載))



3. 安土城跡の令和の発掘調査

①調査の目的

平成の調査整備事業で未着手の個所を対象に遺構の保全と活用を目指す

⇒まずは環境整備の設計に資する資料を得るための発掘調査

②令和5年～6年度の発掘調査（環境整備に伴う発掘調査）

◎調査箇所（PL19・PL23・PL28）

令和5年度～6年度は天主台の東側一帯＝天主台と本丸取付台

本丸取付台＝天主台直下で伝二の丸と伝三の丸とは同じ高さの郭

◎調査の概要

天主台東面・北東面、本丸取付台（天主台の東直下の郭）より着手

調査履歴：昭和と平成に調査等の履歴あり

本丸取付台

本丸取付台北半の建物の様子などが明らかに

4間以上×7間以上（東西約9.5m以上×南北17.5m以上）の礎石立ち建物

本丸や天主の礎石と変わらない大型の礎石を使用

建物の西・南には建物敷地を区切ると考えられる石列

建物の北と東は石垣の崩落や修理によって遺構面が削平されていた

礎石には火災の痕跡あるが火災起因の堆積物なし＝火事場整理されている

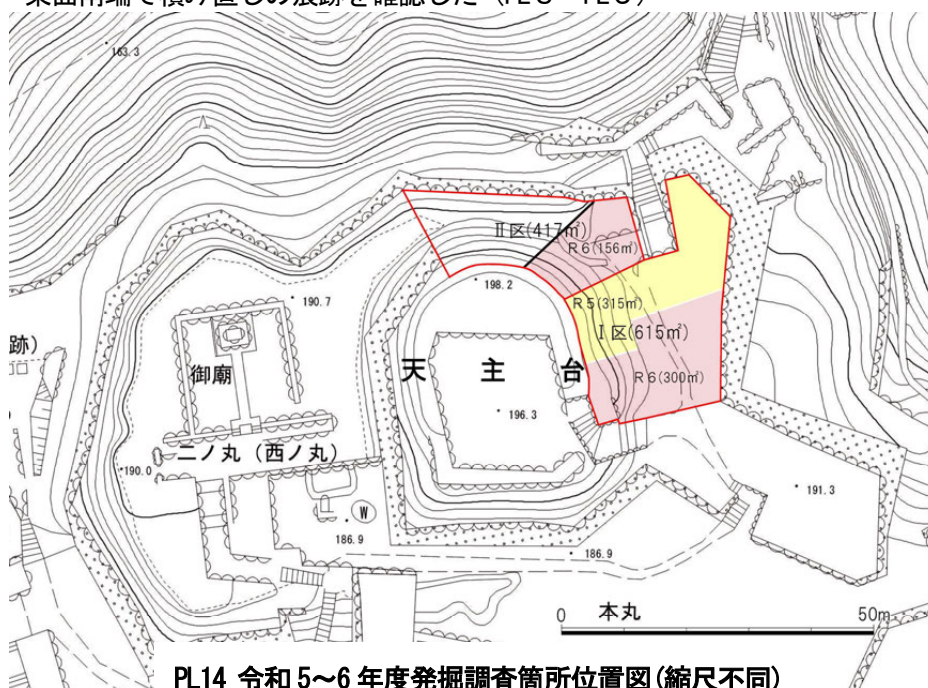
天主台東面～北東面

天主台の崩壊状況、北東隅角・北北東隅角が明らかに

天主台は上半が崩落して前面に石垣の石材が堆積している

残存している築石天端は水平に残存・・・不自然・・・人為的に落としたか？

東面南端で積み直しの痕跡を確認した（PL3・PL5）



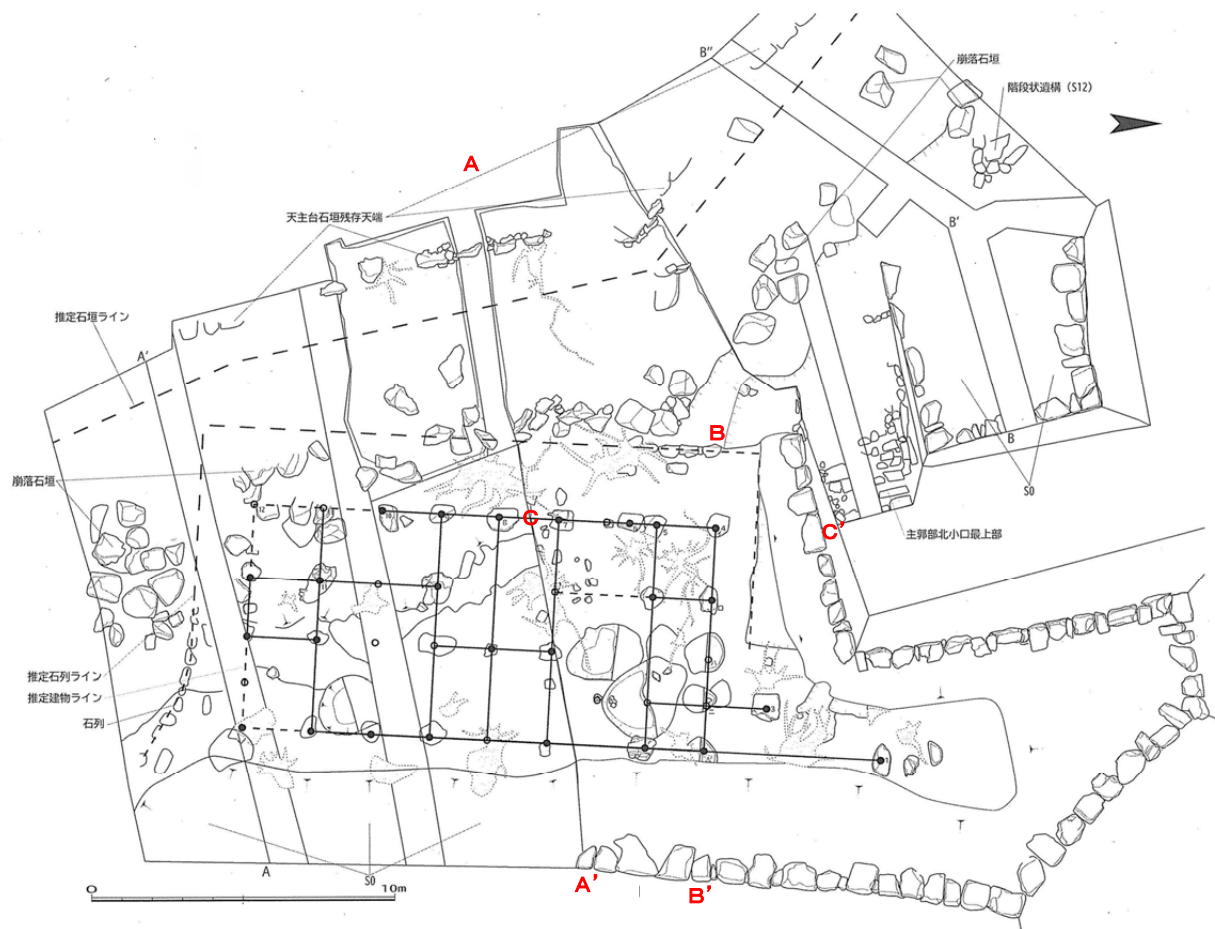


図1-5 本丸取付台建物1北側柱列・西側柱列立面図

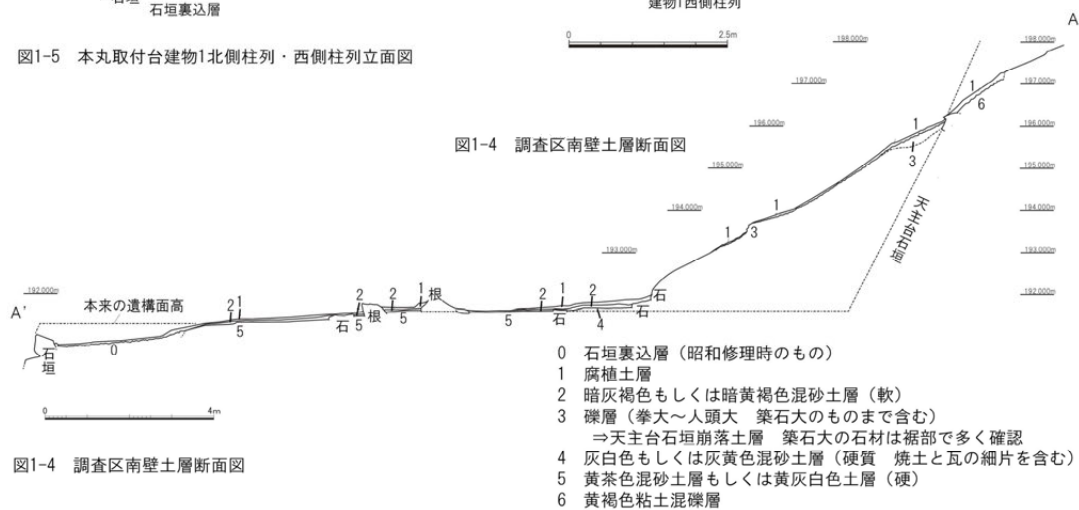


図1-4 調査区南壁土層断面図

PL15 令和5～6年度天主台周辺地区発掘調査関連図（縮尺不同）



PL16 令和 5～6 年度発掘調査 本丸取付台建物跡関連写真（上：R6 本丸取付台建物跡検出状況上（西から）中左：R5 本丸取付台建物跡検出状況（北西から）中右：R5 建物礎石の被熱痕（東から）下左：本丸取付台建物南側の石列（東から）下右：建物西側の石列（南東から））



PL17 令和5～6年度発掘調査 本丸取付台・天主台東～北東面写真（上左：本丸取付台建物西側石列外側の状況（南東から）上右：R6調査区（Ⅰ区）全景（北東から）中左：天主台東面石垣南端（東から）中右：天主台北北東隅角部（北東から）下：天主台東面崩落状況（南東から））

4. 発掘調査成果などから主郭部を考える

◎建物の方位に関すること（特に天主台と本丸周辺について）

①天主と同じ向きのもの

（仮）本丸取付台北建物

②本丸中心建物と同じ向きのもの

（仮）本丸取付台東建物 三の丸の建物群 三の丸東溜建物

③それ以外

本丸西建物 二の丸東溜建物 各虎口の門

※①と②で何が考えられる？

◎上下の郭のつながり（特に天主台と本丸周辺について）

※どうやって隣接する郭間を行き来していたのか？

①二の丸と二の丸東溜

②三の丸と三の丸東溜

※①と②で現在見えている石段やスロープは当時のものなのか？

③本丸取付台と本丸・天主と本丸取付台

※どちらも石段で接続している

◎各郭の役割（あくまでも大いなる推測）

①天主台

天主が建っていた場所（確定）

②本丸取付台

天主と本丸中心建物をつなぐ建物？

③伝二の丸

内容はよくわからない 信長の御座所？

④伝三の丸

複数の建物が存在 小型礎石の小規模な建物と茶釜などの出土遺物 遊びの空間？

⑤伝本丸

中心建物は行幸御殿？

⑥二の丸東溜・三の丸東溜

建物が存在⇒単なる溜状の空間ではない

それぞれから二の丸・三の丸へ上がるための建物があったのでは？

⑦伝台所

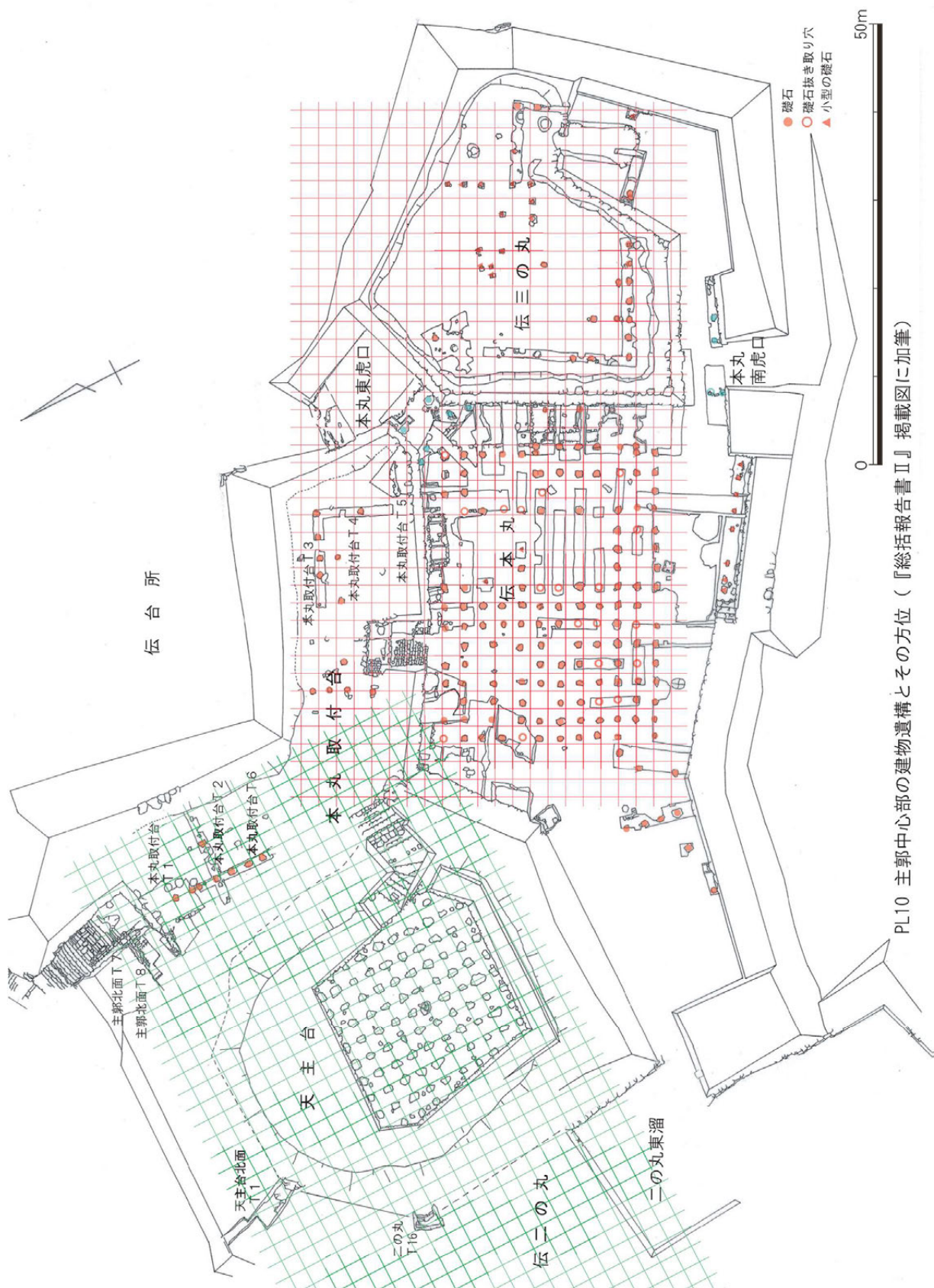
炊事関連の遺構あり・・・伝承どおりか

⑧伝米蔵

詳細は不明

⑨八角平

主郭部の北に隣接する曲輪 「出丸」的な郭か？



PL10 主郭中心部の建物遺構とその方位（『総括報告書Ⅱ』掲載図に加筆）

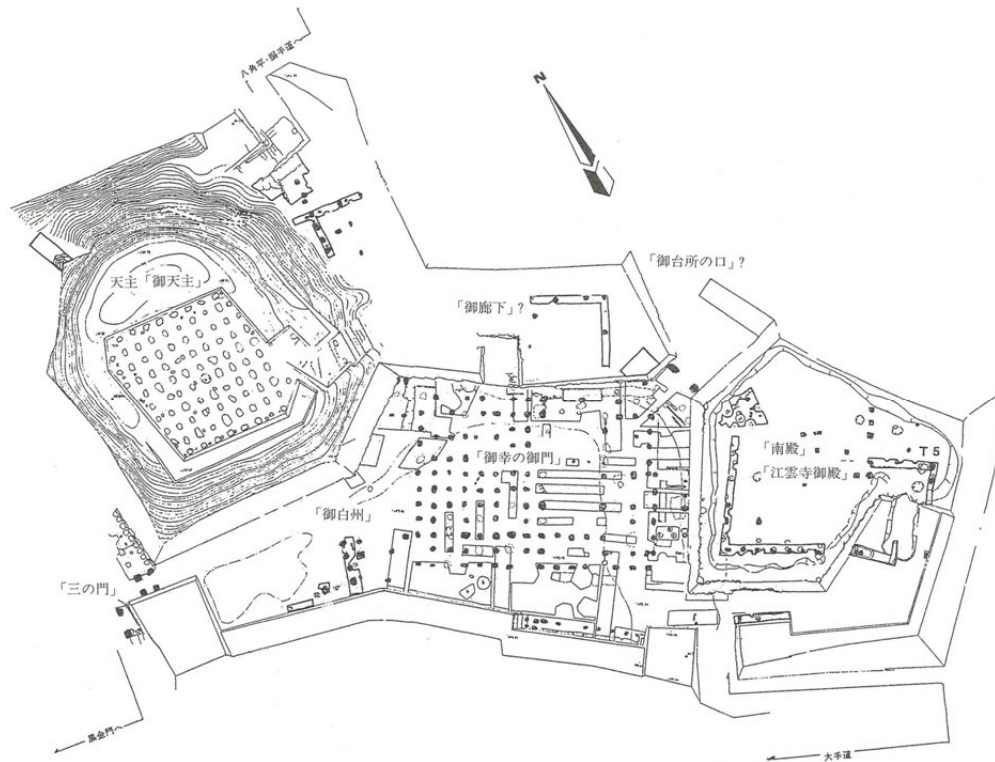
PL18 主郭中心部の建物遺構とその方位（『総括報告書Ⅱ』掲載図に加筆）

◎『信長公記』から主郭部を考える

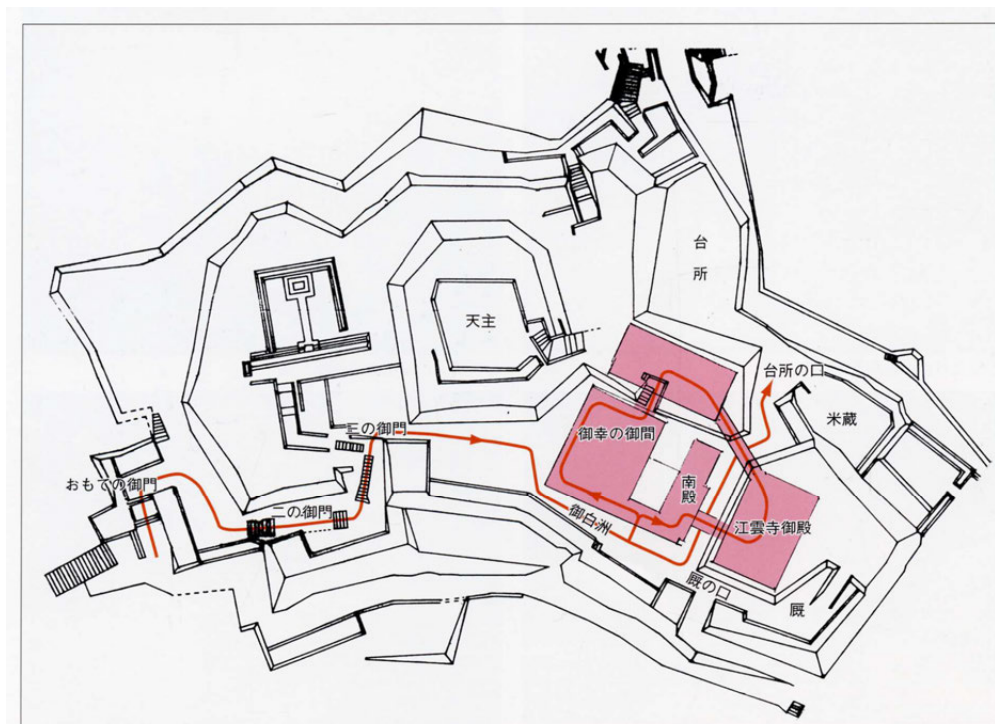
天正十年正月朔日の記述より

解釈はなかなか難しい

いろいろな人の色々な解釈がある



第6図 各遺構と文献資料の対比案



PL19 『信長公記』から見た各郭の建物の解釈

上：「安土城本丸の礎石建物」（『織豊城郭第8号』 下：『安土城を掘る』より転載）

5. これからの課題

◎未調査地の内容解明

未調査地の内容確認調査

まだまだ多くの未調査地がある

赤色立体図の活用

これまでの測量図より格段に情報量が多い

⇒予備調査や調査の計画立案に大いに役立つ

※少しずつでもよい。途切れることなく着実に調査を進められるように。

◎遺構の確実な調査（特に環境整備に伴う発掘調査）

中途半端な調査にならないように・・・遺構の有無をはっきりとさせる

特に建物は礎石の有無で間取りや規模が変わってくる

◎郭を越えた遺構（建物）の検討

ひとつの郭内で本当に遺構は完結するのか？

郭内で完結する建物とそうでは無い建物がある事を認識する必要がある

ただし・・・上下の郭の建物の接続を考える場合に必要な情報が失われている場合が多い

⇒石垣天端付近の遺構が石垣の崩落等によって失われている

◎建物遺構を考えるには・・・

建物敷地の境界があるはず⇒雨仕舞をしていると考えられるから

これを見つけることによって建物の規模や境界がより明確に

⇒これまで意外と確認できていない

確認例：本丸中心建物の北・東・南側（仮）本丸取付台北建物の西・南・北側？

◎直近の課題・・・建物が指向する方位の境界部分はどうなっているのかの解明（PL32 参照）

（仮）本丸取付台北建物と（仮）本丸取付台東建物の間の空間

⇒ 建物があるのか？ 通路なのか？

本丸中心建物と天主の接続を考えるうえで非常に重要な部分

引用文献

本資料に使用した図および写真の出展元は以下のとおりである。

『安土城 1999』＝『安土城・1999』

『安土城を掘る』＝『発掘調査 15 年の軌跡 図説安土城を掘る』

『20 年の記録』＝『発掘調査 20 年の記録 安土 信長の城と城下町』

『安土城 2025』＝『安土城・2025－信長の夢のあと－』

『発掘調査報告書 8』＝『特別史跡安土城跡発掘調査報告 8 搦手道上半部・主郭東面の調査』

『発掘調査報告書 9』＝『特別史跡安土城跡発掘調査報告 9 主郭北面・搦手道の調査』

『発掘調査報告書 10』＝『特別史跡安土城跡発掘調査報告 10 主郭西面・搦手道湖辺部の調査』

『総括報告書Ⅱ』＝『特別史跡安土城跡発掘調査報告書Ⅱ 主郭、搦手道の調査および総括』

『滋賀縣史蹟調査報告書 第十一冊 安土城址』